

中央大学の将来像 ―創立 125 周年記念式典において

中央大学総長・学長 永井 和之

ここに中央大学創立 125 周年記念式典を国内外の賓客をお招きして開催できますことは、本学にとりまして最も光栄とするところであります。

ここにすべてのご来賓の皆様へ、まず心からの御礼を申し上げます。本当にありがとうございます。

本学の栄えある歴史につきましては、後ほどの V R を始め色々な折に触れられるところでありますので、私からは一言だけのべさせていただきます。それは私たちすべての中央大学関係者は、本学の歴史を大変誇りに思い、そして、本学の質実剛健・家族的情味という校風を築かれた、世に知られている先輩も知られていない先輩も、私たち後輩は、心から尊敬し、感謝しているということでもあります。

私たち現役世代は、そのように先人が築いてこられた本学を、より一層発展させることを、ここに誓うものであります。

さて、本学は実地応用の素を養うということを、建学の精神としております。これを私たちは『実学』と称しています。この実学とは、社会のおかしいことはおかしいと感じる感性をもち、そのような社会の課題に対して応える叡智を涵養するということと理解しております。この社会の課題に応える叡智を涵養するには、高度の学問と深い人間性が必要であると考えています。これを学問×人間性＝叡智と捉えています。いかに高度の学問を修めても、人間力ゼロならば、叡智としてはゼロであるということです。そこで本学としては、横軸に人間力、縦軸に学問力において、教育を構築しようとしています。そして、125 周年を迎えるにあたって、この建学の精神にもう一度立ち返って、本学の教育を再構築しようとしています。今、社会の課題に応えるというとき、社会の課題は何かと考えますと、この地球環境、人口増大に伴う食糧自給の問題、そして平和など、地球規模の課題があります。このようなグローバル時代における実学として、国際社会の課題に応える国際的な人材を養成しなければなりません。そのような国際水準で計かって、それ以上の高度の教育を考えなければなりません。国際水準以上の先端的研究の遂行と、それに裏付けされた教育であります。これが本学の国際化ということでもあります。

このためには人間力にとって必要なことは、異文化理解であり、異文化の人とも人間関係を構築できるコミュニケーション力ではないかと思います。

また、世界最先端の学問を学ぶ総合的な学問の府でなければなりません。このように先ほどの人間力の横軸・高度の学問力という縦軸にそのようなファクターを入れていくということでもあります。地球的な視野というより、宇宙的な視野が必要なのかもしれません。約 140 億年前のビッグバンによる宇宙の誕生から、46 億年前の地球の誕生《水の存在・水の惑星》というような宇宙規模での思考であります。

また、少子高齢化という社会構造の変化は、我が国を含む東アジアで顕著です。このような社会的課題に応える新しい社会システムを東アジアで考え、さらに将来大きな市場に成長するアジア全体における経済システムを考え、そして、世界の大きな文化圏であるイスラム文化を理解し、そして、キリスト教文化圏・EU に至る道筋、これは、国際時代の実学を深める道筋でもありと考えています。これはまさに創立者の学んだイギリスのミドルテンプレへ、建学の精神を求め、本学の教育の再構築を求め、西に進んでいくという意味で、『学術シルクロード』と称している構想です。

このように地球規模の課題を正面から取り上げていくという本学の構想からいえば、本学の教育体制をそれにふさわしい体制にする必要があります。既存学部や大学院の内部から研究・教育の国際化を図りつつ、既存組織の変化を促し、促進させる要素としての新学部、それとコラボレーションするように既存学部の教育を改革とするものです。このようなことは、既に行われている F L P における教育と同じ意義を有するものです。

新しい課題に応える人材養成においては、既存の学部という教育体系だけでは修得できない複合的な教育が要求されている面があります。そのような複合的な教育に対応するのが、複数の学部教育を連結させる教育であります。本学は、そのようなことを促進し、学部の垣根を低くしていくという方向性を一方ではとりたいと考えています。学部の枠を乗り越えて、複合的な教育プログラムを考えていく中では、現在の課題を考慮すると、本学には医学・薬学という分野がありません。高齢化社会における問題を考えたときには、必要な分野です。そこで本学は、本学にない分野を持つ内外の大学や多様なシンクタンクとの教育研究交流協定などを積極的に推進していきます。

横軸としての教養における国際化・異文化理解、この幅の広さと多様性は、学部横断的なカリキュラムと、大学の垣根を超えた大学間交流協定で、国際的にも国内的にも充実したカリキュラムの提供につながります。

縦軸としての高度の学問体系における国際化と世界最先端科学や融合的な学問体系の構築も、そこから始まります。

本学の将来像は、それぞれ、このように高度化・国際化した学問の拠点が、一つの宇宙的な空間をなしているキャンパスであります。

この理想像はまさにラファエロの『アテネの学堂』の示している姿であります。

本日はまさに本学の新しい出発の第一歩ともいうべき日であります。本日ご臨席をいただいている皆様、インターネット等でご参加いただいている皆様、皆様のご厚誼・ご支援・ご指導を切にお願い申し上げます。最後になりましたが、皆様のますますのご健勝をお祈り申し上げて、私の挨拶とさせていただきます。本日はありがとうございました。